

アブソリュート・チェアーズ Absolute Chairs

2024年2月17日（土）－ 5月12日（日）

■ 展覧会概要

開館当初からデザイン椅子の名品を館内に設置してきた「椅子の美術館」が、従来のデザイン椅子展とは異なる新しい視点から「椅子」というテーマに挑みます。

椅子は多くのデザイナーや建築家の創造性を刺激する絶対的なテーマであると同時に、アーティストにとっても魅力的なモチーフとなってきました。玉座のように権威の象徴となることもあれば、車椅子のように身体の補助となることもあり、電気椅子のように死や暴力とも無縁ではない椅子。また、私たちが椅子に座って向き合えば、そこには関係が生まれます。この上なく身近でありながら、社会や身体との密接な関わりの中で幅広い意味や象徴性をまとった椅子は、まさに究極の日用品と言えるでしょう。

アーティストたちは椅子のもつ意味をとらえ、作品を通じて社会の中の不和や矛盾、個人的な記憶や他者との関係性などを浮かび上がらせてきました。アートのなかの椅子は、日常で使う椅子にはない極端なあり方、逸脱したあり方によって、私たちの思考に揺さぶりをかけます。

本展覧会は、主に戦後から現代までの美術作品における椅子の表現に着目するものです。椅子をめぐる国内外の平面・立体・映像作品 83 点を紹介し、アートのなかの椅子の機能や含意を読み解きます。

*展覧会タイトル「アブソリュート・チェアーズ」は、デヴィッド・ボウイの曲名「アブソリュート・ビギナーズ」から連想した言葉です。本展覧会は、「アブソリュート＝絶対的・究極的」から導かれる「椅子の絶対的な魅力の源泉とは？」「アートにおける椅子の究極とは？」といった問いを出発点として企画されました。

■ 見どころ

1. 「椅子の美術館」が新たな視点で挑む、現代アートにおける「椅子」のテーマ。
2. 「椅子」がもつ多様な意味や象徴性を、現代アートを通して徹底考察。
3. 「椅子」をめぐる国内外の平面・立体・映像作品、83点（作家数28組）が集結。



宮永愛子《waiting for awakening -chair-》
2017 写真：木奥恵三
「宮永愛子：漕法」展示風景（高松市美術館、
香川、2019）
©MIYANAGA Aiko Courtesy of Mizuma Art
Gallery

■ 章構成

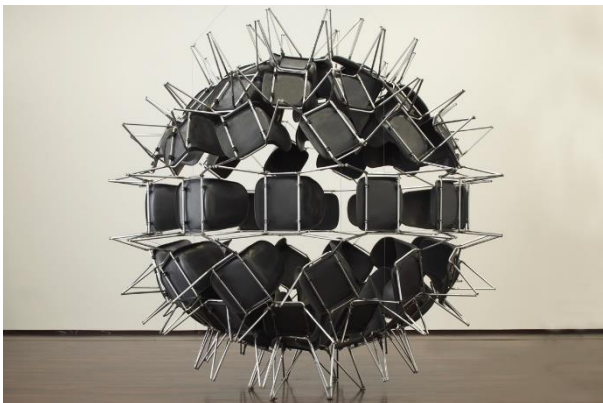
- 第1章 美術館の座れない椅子
- 第2章 身体をなぞる椅子
- 第3章 権力を可視化する椅子
- 第4章 物語る椅子
- 第5章 関係をつくる椅子

■ 出品作家

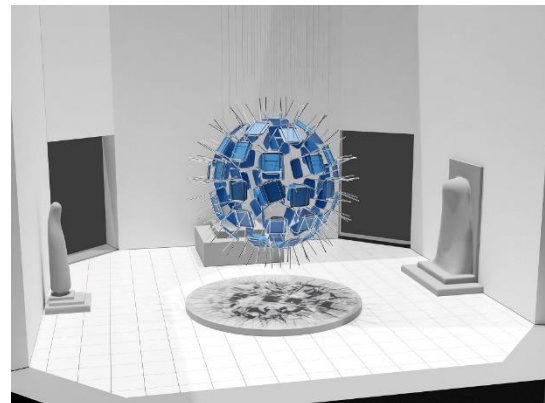
フランシス・ベーコン、ミロスワフ・パウカ、ハンス・オプ・デ・ベーク、ダラ・バーンバウム、ミシェル・ドゥ・ブロワン、副産物産店、クリストヴァオ・カニャヴァート（ケスター）、マルセル・デュシャン、アンナ・ハルプリン、檜皮一彦、石田尚志、工藤哲巳、スッティイー・クッナーウィチャーヤノン、草間彌生、ジム・ランビー、宮永愛子、名和晃平、岡本太郎、オノ・ヨーコ、ダイアナ・ラヒム、ローザス、シャオ・イーノン&ムウ・チェン、高松次郎、竹岡雄二、潮田登久子、アンディ・ウォーホル、渡辺眸、YU SORA

■ 日本初展示！ ミシェル・ドゥ・ブロワンによる滞在制作

日本初展示となるカナダの作家、ミシェル・ドゥ・ブロワンが滞在制作を行い、地下センターホールに約40脚の会議椅子を用いた新作の彫刻作品《樹状細胞》（*木の枝のような突起をもつ免疫細胞の一種）を設置します。本作品は2005年の《ブラック・ホール・カンファレンス》に基づきながら、日本国内で入手した椅子を素材とし、当館の空間に合わせて再構成しています。椅子が寄り集まって形成される集合体は、人間社会の暗喩と捉えることもできるでしょう。



[参考作品] ミシェル・ドゥ・ブロワン《ブラック・ホール・カンファレンス》2005年、ヴァル＝ドゥ＝マルヌ現代美術館
撮影：Peter Rosemann



《樹状細胞》イメージドローイング

ミシェル・ドゥ・ブロワ *Michel de Broin*

1970年、カナダのケベック州モントリオール生まれ。ケベック大学モントリオール校にて視覚芸術分野の修士号を取得。モントリオールを拠点に、社会を構築する産業システムや、人間を支配する様々な力学を可視化する彫刻作品や映像作品、インスタレーションやパフォーマンスを発表。既製品や見慣れた形態を用いながら、社会や政治に対するアイロニーをユーモラスに表現する作風で知られる。

■ 開催情報

展覧会名	アブソリュート・チェアーズ
会 期	2024年2月17日(土) - 2024年5月12日(日)
休 館 日	月曜日(4月29日、5月6日は開館)
開館時間	10:00~17:30(展示室への入場は17:00まで)
観 覧 料	一般 1300円(1040円) 大高生 1040円(830円) ・()内は20名以上の団体料金 ・中学生以下と障害者手帳をご提示の方(付き添い1名を含む)は無料です。 ・企画展観覧券(ぐるっとパスを除く)をお持ちの方は、あわせてMOMASコレクション(1階展示室)もご覧いただけます。
出品点数	83点
主 催	埼玉県立近代美術館、東京新聞
協 力	国立民族学博物館
助 成	遠山記念館 芸術・学術研究等助成金
広報協力	JR東日本大宮支社、FM NACK5

■ 会場案内

埼玉県立近代美術館

〒330-0061 さいたま市浦和区常盤 9-30-1 TEL: 048-824-0111 FAX: 048-824-0119

<https://pref.spec.ed.jp/momas/>

- ・JR京浜東北線北浦和駅西口から徒歩3分(北浦和公園内)。JR東京駅、新宿駅から北浦和駅までそれぞれ約35分。
- ・当館に専用駐車場はありませんが、提携駐車場「タイムズ埼玉県立近代美術館東」では駐車料金の割引があります(企画展観覧で300円引き、MOMASコレクション観覧で100円引き)。団体バスは事前にご相談ください。
- ・お体の不自由な方のご来館には業務用駐車場を提供いたします。ただし台数に限りがありますので事前にご連絡をお願いします。
- ・状況により休館および会期変更の可能性があります。ご来館前に当館ウェブサイトで最新情報をご確認ください。

■ 関連事業

○座談会「美術のなかの椅子なるもの」

登壇者：山口恵里子（筑波大学教授）、建畠哲（当館館長）、鶴尾佳奈（愛知県美術館学芸員）、佐伯綾希（当館学芸員）

日時：2月23日（金・祝）13:30～16:00（開場は13:00）

場所：2階講堂

定員：80名（申込不要／先着順）

参加料：無料

○石田尚志（本展出品作家） パフォーマンス＋トーク＋上映会

日時：3月10日（日）14:30～15:50（開場は14:00）

場所：2階講堂

定員：80名（申込不要／先着順）

参加料：無料

内容：作家によるパフォーマンス、トークと、椅子が象徴的に使われた映像作品の上映を行います。

○檜皮一彦（本展出品作家） ワークショップ「walkingpractice」

日にち：4月21日（日）

* 事前申込制。内容や申込方法等の詳細は、当館ホームページでお知らせします。

○担当学芸員によるギャラリートーク

日時：3月23日（土）、4月13日（土）15:00～（30分程度）

場所：2階企画展示室 * 企画展観覧料が必要です

■ スライド・トーク

ご希望のグループにスライドを使って 展覧会の見どころをご案内します（予約制）。

お問い合わせ、ご予約は教育・広報担当（問い合わせ先：048-824-0110）まで。

■ 同時開催

MOMA S コレクション（1階展示室）

2023年12月2日（土）－ 2024年2月25日（日）

「セレクション」「魅惑のリアリズム」

2024年3月2日（土）－ 6月2日（日）

「セレクション」「チェアーズー椅子の美術館」「さいきんのたまもの」

■ 図録

公式図録『アブソリュート・チェアーズ 現代美術のなかの椅子なるもの』を平凡社より刊行予定です。

ISBN：928-4-582-20735-4

172頁 価格：3,300円（税込）

■ 内覧会／プレスカンファレンス

2024年2月17日（土）午後5時30分～（受付開始：午後5時）

埼玉県立近代美術館 2階講堂

上記の日程で、関係者内覧会を兼ねたプレスカンファレンスを開催いたします。

参加ご希望の方は、p2401115@pref.saitama.lg.jp（担当・嶋原）までメールでお申し込みください。その際、貴社名、お名前、参加人数、テレビカメラの有無をお知らせください。

■ お問い合わせ

展覧会担当：佐伯、吉岡、松江／広報・画像に関するお問い合わせ：嶋原

TEL: 048-824-0111（代表）／048-824-0110（学芸直通） FAX: 048-824-0118

p2401115@pref.saitama.lg.jp（企画展担当）

■ 広報用画像

画像のご提供については、当館にお問い合わせください。当館から画像をデータにてご提供いたします。ご請求は p2401115@pref.saitama.lg.jp（担当・嶋原）まで、メールでお願いいたします。

- ・画像を掲載する場合は、作品のキャプションを明記してください。
- ・作品画像のトリミング、文字載せはご遠慮ください。
- ・展示風景の写真のご提供も可能です。詳しくはお問い合わせください。



①



②



③



④



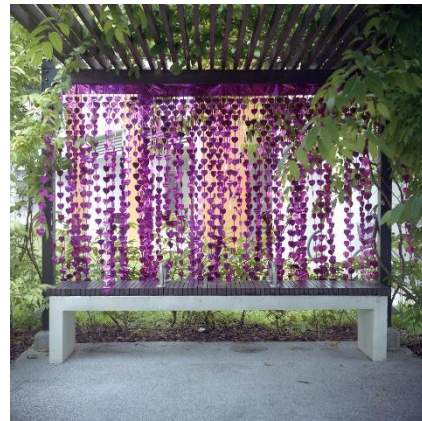
⑤



⑥



⑦



⑧

画像キャプション、クレジット

- ① 宮永愛子 《waiting for awakening -chair-》 2017 写真：木奥恵三
©MIYANAGA Aiko Courtesy of Mizuma Art Gallery 「宮永愛子：漕法」展示風景（高松市美術館、2019）
- ② クリストヴァオ・カニャヴァート（ケスター）《肘掛け椅子》 2012 国立民族学博物館
- ③ 石田尚志 《椅子とスクリーン》 2002
- ④ ミロスワフ・パウカ 《φ51x4, 85x43x49》 1998 国立国際美術館
- ⑤ ハンス・オプ・デ・ビーク 《眠る少女》 2017 タグチアートコレクション／タグチ現代芸術基金
©Studio Hans Op de Beeck
- ⑥ 副産物産店 《Absolute Chairs #1_rodin's crate》 2024 作家蔵
- ⑦ アンナ・ハルプリン 《シニアズ・ロッキング》 2005/2010 Courtesy of ZAS Film AG
- ⑧ ダイアナ・ラヒム 《インターベンションズ》 2020- 作家蔵